

現場のさまざまな状況が明らかになる！！

今年度、新たに自校通級が開設されることを踏まえ、市教組は、昨年度から教育委員会と協議を重ね、大阪がこれまで培ってきた「ともに学び ともに育ち ともに生きる」教育が後退することのないよう取り組みをすすめてきました。

ことばの教室などの他校通級、そして今年度から自校通級指導を設置している学校の1学期の取組状況をもとに、来年度に向けて障がい児学級設置を含めた教育委員会との協議をすすめていきたいと考えています。

アンケートの結果は以下のとおり。(数は回答数です。重複回答や無回答もあるので、各設問の合計数は一定ではありません)

1. 通級指導を受けている児童生徒で、医師やこども相談センターの医学的診断のある子どもや、療育などの手帳を所持している子どもはいますか？

- ア いない
- イ いる → a 特別支援学級への入級の希望はなかった
b 特別支援学級への入級の希望があった

ア 7 イ a 15 イ b 11

市教組見解

イ b …医学的診断や手帳がありながら、特別支援学級への入級の希望が叶わなかったことは、市教組として問題であると考えます。

2. 小2～6 / 中2～3年生の通級指導を受けている児童生徒で、昨年度は特別支援学級に在籍していたが、今年度は在籍しなかった子どもはいますか？

- ア いない
- イ いる → a 教育委員会による指導により
b 児童生徒 / 保護者の希望で

ア 16 イ a 7 イ b 5

市教組見解

イ a …既に支援学級に入級している子どもを追い出すようなことをすると、担当教員と子ども・保護者との信頼関係が損なわれます。

3. 通級指導専用の教室がありますか？

- ア ある
- イ ない → a 特別支援学級の教室を使用
b 昼休みや放課後等に原学級の教室を使用

ア 21 イ a 5 イ b 3

4. 通級指導を受けている児童生徒の支援体制について教えてください。

- ア 通級指導教室でのみ支援等を行っている
- イ 通級指導担当が原学級を巡回したり、必要な教科で入り込みをしている
- ウ 原学級で特別支援担当やサポーターが必要な教科で入り込みをしている

ア 17 イ 17 ウ 15

市教組見解

各校で工夫をして、子どもの特性に応じた必要な支援を行っています。市教組は引き続き、人的措置を強く訴えていきます。

5. 通級指導を受けている児童生徒が14人以上の分会におたずねします。加配教員や特別支援教育サポーターの配置時間増などがありましたか？

- ア なかった
- イ あった → a 教員の加配
b 特別支援教育サポーター

ア 11 イ 0 ウ 0

市教組見解

国では通級指導を受ける児童生徒「13人につき担当教員1人」の定数化を段階的に実施するとしており、2026年度によりやく完全実施となります。しかしながら、1人で対応できる子どもの数には限界があります。子どもたちが必要な支援を受けられるよう、加配措置を強く訴えていきます。

6. 通級指導教室が設置されたことにより、特別支援学級の支援体制に支障をきたしていると感じることはありますか？

- ア ない
- イ ある → 具体的にどういう場面で感じるかご記入ください

ア 19 イ 6

イ 記述

- ・支援学級に入れなくなった児童がいる。ADHD、LDなどの子は通級指導扱いに。
- ・通級は(週)1hしか取れない。
- ・場所がない。
- ・通級指導教室は必要を感じて設置したが、支援学級が6→4学級に減ったことはかなり負担。(昨年と支援学級在籍の数はほとんど変わっていない上に通級の人数が増えて、職員の数も減った)
- ・これから通級に入級する児童が増えていけば、(通級指導担当が)特別支援の方を応援できなくなり、支援担当がまわらなくなるのは目に見えている。
- ・「支援学級と変わるのには奨励費などの外枠のみ、支援方法や内容は変わらない」ということで、負担が大きくなっているように思う。線引きが非常に曖昧になっており、本人・保護者に説明がつかない感じがある。

7. 通級指導担当はどのようにして決められましたか？

- ア 全教員の中から校長が指名
- イ 特別支援担当から校長が指名
- ウ 特別支援担当の中で互選
- エ 立候補にて
- オ その他 → 具体的に

ア 11 イ 8 ウ 0 エ 2 オ 6

オ 記述

- ・コーディネーターと管理職で体制について話した。
- ・管理職は講師や若手に打診していたが、誰でもいいという風に決められなかったので、希望者がいないのならと立候補した。
- ・他校通級を担当したいということで異動した。
- ・通級指導担当をしていて、異動した。
- ・他校通級もやっているのだから、市教委による人事。
- ・話し合い。

8. その他、気になることがありましたらご記入ください。

- ・抽出1hでおさまきれない子の対応について。
- ・通級在籍人数に関わらず教員の配置が一人であるため、児童一人ひとりに必要な指導時数が設定できない。
- ・同じクラスに支援学級在籍の児童がいるので、支援担当やサポーターの入り込み時に合わせて様子を見てもらえるよう頼んでいる。
- ・支援学級に入級し、原学級で学習した方が、入り込みで多くの子どもたちを見れるというメリットもある。
- ・非常に柔軟に、できることからスタートしている。通常学級～通級指導～支援学級と柔軟に、臨機応変に対応できるとなると、多くの子をカバーしていけると考える。
- ・これまで入り込みだけで支援学級在籍になっていた児童を自校通級に…というが、本当に必要な支援は、教科とか自立活動といった枠組みの外（登下校の準備、休み時間、給食、たてわり活動、体育など）に多い。そこはサポーターによる支援を、と言われても、サポーターが圧倒的に足りない。
- ・在籍人数や児童の実態に応じて、加配あるいはサポーターの配置をしてほしい。今後も通級を希望される保護者が増えると予想されるため、加配がないと受け入れができないと、今年度の通級担当として感じている。
- ・「学びのサポーター」と「特支サポーター」の募集をかけると、ほぼ「学びのサポーター」に応募される。要支援の子につかない、給食や体育の支援はなし、放課後業務のお手伝い可…といった条件で同じ時給なら、特支サポーターに人が集まらない。大量のサポーター申請書類を作成しても、本当に必要な支援につながらないので、結局、教員が全ての支援を行うことになるので、入り込み支援ができる支援担当に大きな負担がかかる。本当に必要な支援が行われなければ、無駄な書類なんてなくしてほしい。特支サポーターにしっかり予算をつけて、マンパワー不足を解消してほしい。
- ・通級担当に入り込みはないが、せざるを得ない。教員が不足している。
- ・支援の教員が1人減ることで、昨年度と大きく支援体制を変更しなければならなくなった。通級指導を受ける子どもが増えれば、さらに支援担当が少なくなってしまうことも予想される。

- ・何人の児童に対して、通級担当が配置されるのか分からない。
- ・4月、通級指導担当になったとき、校長から「R8年度までは、どれだけ通級の児童が増えても1名でいってもらおう」と言われた。
- ・配置は次年度以降、どうなっていくのか。タイムスケジュールを知りたい。
- ・支援学級と通級による指導の役割の違いを、保護者等にどのように説明すれば良いのかという点が気になっている。
- ・通級に対する理解が、教員にも保護者にも薄い。通級の研修は、今後もっと必要になってくると思う。
- ・通級担当が通級の研修に行き、学びはしたが、まだまだどのようにすればよいか、迷うことも多く手探り状態である。
- ・研修などに行くと、本校のような支援学級の延長パターンと独立パターンの2通りあり、実施困難なことを言われることも多い。学校裁量も必要だろうが、方針をはっきり出してほしいとも思う。
- ・研修では通級とはどのようなものかという話であったり、その他の特別支援の研修も理論的な話ばかりで、具体的に学習の流れをどうするかや、それぞれの障がいに関した自立活動にはどんなものがあるかをほとんど教えてくれなかったので、教員側の引き出しが全く増えていかない。
- ・①どういう流れで通級を始めるか ②一時間の学習の流れをどうするか ③学習面が不安な親や困っている担任が多いのに、通級で教えることは別のことで、それを親や担任に理解してもらうのが難しい（回数や原学級を抜けた分の授業の補充等）などで困っていて、すぐ使える具体例がほしいとインクルーシブ推進室に伝えているが、ほとんど教えてもらえない。
- ・自立活動の6区分27項目は、言葉が難しすぎて児童の様子に結びつかせにくいので、どの障がいがあるかそれに該当するか具体例を書いて、それに合う自立活動の紹介を表にして配ってほしいとインクルーシブ推進室に伝えているが、全くもらえない。
- ・指導主事が数時間だけ来て、こんな方法があるよと言われるより、たくさんの具体的な障がいの種別ごとの自立活動例集がほしい。
- ・現在支援学級に入級している児童を、この2～3年で通級を勧めるように管理職から言われている。

- ・インクルーシブ推進室から視察に来た指導主事が「今後は入り込み支援はなくなっていく。特別支援学級では自立活動をしなければならず、支援担はそれで手いっぱいになるから」と言われた。
- ・他校通級設置校には自校通級ができて加配がないのかと指導主事が驚いていた。インクルーシブ推進室内での情報共有の無さに驚いた。
- ・他校通級を受け入れている学校にとっては、これまでの「他校」に加えて「自校」も二重にまかされているので、負担は自校通級のみの学校とは単純に比べられない。
- ・通級指導は本来、1～8h別室で自立活動をするという場。しかし大阪市は国より支援学級に在籍していて、見守りや入り込み支援をしている児童生徒が多いとの指摘を受け、そのような児童生徒を通級へ移行させたいとの意図があるようです。通級はあくまでも抽出による別室での自立活動なので、入り込み支援担当ではない。通級の運用の目的に誤りがあると考えます。

アンケートのご協力と数々のご意見、ありがとうございました。

これらの意見をもとに本年度の要求書を作成し、教育委員会との協議で現場の声を訴えていきたいと思っております。